

令和 8 年 9 月 2 5 日

周防大島町議会議長 荒 川 政 義 様

建設環境常任委員長 岡 崎 裕 一

委 員 会 審 査 報 告 書

本委員会に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、周防大島町議会会議規則第 7 7 条の規定により報告します。

記

認定第 1 号 令和 7 年度周防大島町一般会計歳入歳出決算のうち関係所管部分については、[賛成多数] で、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

認定第 5 号 令和 7 年度周防大島町渡船事業特別会計歳入歳出決算については、[賛成多数] で、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

認定第 6 号 令和 7 年度周防大島町下水道事業特別会計決算については、[賛成多数] で、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

委員会開催日 令和 8 年 9 月 9 日 9:30～ 15:53

委員の出欠 全員出席

◎認定第１号 令和７年度周防大島町一般会計歳入歳出決算の認定について

主な質疑及び答弁

【下水道課】

（質疑）自治会への浄化槽に関して補助金を新たに設けることについて。

（答弁）現状の補助制度の中ではないので今後、検討する。

【生活衛生課】

（質疑）町営住宅の適正化に向けた集約や長寿命化の改善事業に注力して

いくとあるが、具体的な適正化や長寿命化について。

（答弁）住宅の管理については、「維持管理対象団地」「個別改善対象団地」

「用途廃止対象団地」の３種類に分けている。維持管理対象団地については、定期的に予防保全的な修繕を実施する。個別改善対象団地については、対象団地に必要な改善事業を実施する。用途廃止対象団地については、空き家になった時点で用途廃止としている。

（質疑）地域猫活動について、どのような長期目標をもって取り組んでいるのか。その目標に対する現在の進捗状況や成果について。

（答弁）地域猫活動の目標は、不幸な、飼い主のいない猫を増やさないことであるため、まずは不妊・去勢手術への補助をメインに行っている。しかしながら、餌代などの手術費以外の部分が含まれているのが現状である。地域猫の捉え方は人それぞれであり、不適切な餌やりは周辺住民のトラブルを引き起こしかねないため、現在の補助要綱を見直し、方向性を明確にしていく必要があると考えている。

（質疑）町営住宅の家賃滞納分について、収納率を上げるためにどのような対策を講じているのか。

（答弁）従来通り、督促・催告を行い、税務課とも連携して徴収に努めている。

る。また、今年度から口座振替の推進の取組として、スマートフォン等での口座振替依頼を可能にし、利便性の向上を図っている。

(質疑) 大島斎場・橘斎場の火葬件数と1日の最大火葬件数について。

(答弁) 令和7年度の火葬件数について、大島斎場が200件、橘斎場が193件、合計393件の火葬を行った。1日の最大火葬件数は4件であるが、火葬のみの場合であり、葬儀の状況によって最大件数は変動する。

【商工観光課】

(質疑) 地域おこし協力隊の応募が6名あったが、採用に至らなかった理由について。

(答弁) 応募者6名中5名は自転車事業の要件に合致しなかった。自転車に特化した適任者1名を採用決定していたが、採用予定の1か月前に家庭の都合による辞退の申し出があり、結果として採用者なしとなった。

(質疑) 観光一般経費委託料の執行内容と、観光交流センター予定地に関する今後の進め方について。

(答弁) 委託料は観光交流センター予定地の調査に係る経費である。令和8年度の事業展開については議会との合意形成を前提としており、現在は観光振興ビジョン策定委員会の中で委員に情報共有を図り、意見を聴取している段階である。6月に第1回を開催し、コンサルタント業務のプロポーザル契約完了後に第2回委員会を開催して検討を深める予定である。

(質疑) 沖家室シーサイドキャンプ場について、利用者総数は減少しているが、利用件数は増加しており少人数利用（ソロキャンプ等）の傾向が見られる。これを踏まえた今後の施策やターゲット層の分析について。

(答弁) 片添ヶ浜海浜公園はファミリー向け、沖家室シーサイドキャンプ場はソロキャンプ向けとして整備した経緯もある。近年ソロキャンプの利用が増加傾向にあり、そうした利用形態のニーズにも対応しつつ運営を行っている。

(質疑) サザンセット・ロングライドが令和7年度をもって終了となった理由について。

(答弁) 参加者数が減少傾向であり、職員負担も多い事情を鑑みた。イベントとしての一定の役割・知名度向上を終えたと判断し、事業を終了した。

【地域交通課】

(質疑) 地域公共交通活性化協議会の検討内容について。

(答弁) 公共交通の見直しについてタクシー事業者、バス事業者のほか公共交通に関わる方々に参加していただいて意見を伺いながら進めている。協議会での総意が運輸局等への申請において大事なところでもあり継続していく必要がある。

(質疑) 町内に奥畑のような状況の地域はたくさんあるが、他の地域でもデマンド運行を行っていくのか。

(答弁) 奥畑線については、廃止バス路線の見直しで営業路線を引き継いでデマンドを取り入れた実証運行を行ったところであるが、状況としては一定の利用があったため本格運行に至った。他の地域での同様の形態での運行については、どの地域の路線にしても赤字補填をするような格好となり、利益が見込めるものではないので難しいと思っている。

【農林水産課】

(質疑) 橘ふれあいセンターの蒸気ボイラー更新工事を行っているが、4箇所
の加工所の必要性について。

(答弁) ボイラーについては老朽化のため更新した。今後も4箇所の加工所
を維持していく必要はないと考えている。施設の古さや利用者数から橘ふれあいセンターが最初に廃止になると思うが、今回更新したボイラーは他の施設に移設するなど無駄にならないようにしたい。最終的には2箇所に減らしていくのが良いと思っている。

(質疑) 耕作放棄地解消補助金の周知方法について。

(答弁) 事業開始年度には広報に載せていたが、その後は載せていないので
ホームページに載せるなど検討したい。

(質疑) ヌートリアやサルの捕獲について。

(答弁) ヌートリアは屋代川で1番多く捕獲された。サルは情島で捕獲された。

(質疑) ガルテンヴィラ大島の空室を減らすために空家定住対策課との連携について。

(答弁) 空家定住対策課と連携していないが空室については、新しいパンフレットを作成し、コンビニエンスストアや道の駅など来島者の多い所に置く対策を予定している。用途変更も良いが先ずは以前のように満室に近い状態に戻したいと考えている。

【施設整備課】

(質疑) 水門、樋門の管理委託についての課題として、電動化・自動化の検討について、年間何箇所程度の整備が可能なのか。また、管理人が不在の陸閘、水門等の割合はどれくらいで、その管理は現状どうしているのか。

(答弁) 水門・樋門の電動化等について、年間施工箇所数については、回答は困難だが、整備すべき箇所の選定等を行い、有利となる交付金、補助金等で財源を確保し、計画的に行うべきと考えている。管理人

不在の施設の割合については、全施設での回答はできないが、河川施設を例にすると、水門・樋門では約 3 割、陸閘では約 4 割が不在である。管理人不在施設の管理について、陸閘の場合は閉じた状態としている。なお、管理人が不在で、利用実態がない陸閘は廃止にむけて検討することも必要と考えている。水門・樋門は閉じた状態のままとはできないことから、職員で対応している。

(質疑) 漁港管理で浚渫要望が多いということだが、どれくらい対処できているのか。

(答弁) 一度浚渫をしても大体 4, 5 年くらいで、また砂等が溜まってくるので、おおまかに 5 年おきに同じ箇所を浚渫する状況となっている。令和 7 年度に和田漁港逗子、浮島漁港江ノ浦で施工した箇所も、また砂等が堆積してくるのではという状況。

◎認定第 5 号 令和 7 年度周防大島町渡船事業特別会計歳入歳出決算の認定について

主な質疑及び答弁

【地域交通課】

(質疑なし)

◎認定第 6 号 令和 7 年度周防大島町下水道事業特別会計決算の認定について

主な質疑及び答弁

【下水道課】

(質疑) 下水道普及率 65%、汚水処理人口普及率 90%の目標数値は非現実的ではないか。近い目標、現実的な数字を用いたほうが良いのでは。

(答弁) 計画区域の工事完了に伴い 100%を目指していけるものであるが、
汚水処理人口普及率は人口に係る指標のため、目標を定めづら
いことからこのような表現となっている。

(質疑) 浮島の漁業集落排水は 30 年近くたっているが、今後の維持管理の計
画について。

(答弁) 平成 9 年に浮島漁業集落排水の供用を開始し、約 30 年経過してい
るが、老朽化は著しい。修繕についてもポンプ等の更新を適宜行っ
ているが、今後の維持については長期的に見て、更新するか別の方
法に転換するかは大きな課題であり考えていかないといけないと痛
感している。

(質疑) 資本的収支および支出の中で、予算額と決算額の差について。

(答弁) 資本的収支および支出は下水道の未普及地域を整備する費用が主
であり、決算額が減少した要因としては、財源である社会資本整備
総合交付金の配分率が落ち、当初見込んでいた交付金額が減少し、
それに合わせて工事の規模も縮小したことによる。